

ウズベキスタン

2023 日本留学フェア in Tashkent

実施報告書

[1]	実施概要	1
[2]	全体スケジュール	1
[3]	各日の実施状況	4
[4]	会場の様子	5
[5]	来場者の傾向	7
[6]	次回に向けて	9



2023年12月

ウズベキスタン日本センター(UJC)

[1] 実施概要

1. 日程:2023 年 11 月 6 日(月)
(翌 11 月 7 日(火):グループごとに学校訪問を実施)
2. 場所:ウズベキスタン・タシケント市
インターナショナル・ビジネスセンター(IBC) 9 階ホール「コーカンド」「ウルゲンチ」
3. 実施体制
主催:ウズベキスタン日本センター (UJC)
共催:名古屋大学ウズベキスタン事務所
筑波大学(NipCA プロジェクト)
後援:在ウズベキスタン日本国大使館
ウズベキスタン共和国 高等教育・科学・イノベーション省
独立行政法人 国際協力機構 (JICA)
ウズベキスタン日本語教師会
協力:独立行政法人 日本学生支援機構 (JASSO)
4. 言語:原則として英語
(プレゼンテーションはウズベク語・ロシア語も可、各ブースには通訳サポートスタッフ 1 名を配置)
5. 対面参加大学・機関:9 大学、4 機関
(大学)京都先端科学大学、慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス、国際大学、筑波大学、東洋大学、名古屋大学ウズベキスタン事務所、名古屋経済大学、名古屋商科大学、山梨学院大学 国際リベラルアーツ学部 (iCLA)
(機関)在ウズベキスタン日本国大使館、独立行政法人 日本学生支援機構 (JASSO)、一般財団法人 日本国際協力センター (JICE) ウズベキスタン JDS プロジェクト事務所、ウズベキスタン日本センター(UJC)
6. 資料参加大学:4 大学
東京大学 教養学部英語コース(PEAK)、武蔵野大学、立命館大学、立命館アジア太平洋大学

[2] 全体スケジュール

【11 月 6 日(月)】

9:30~17:00 「2023 日本留学フェア in Tashkent」	
9:30	開場、来場者受付開始
10:00~10:20	開会式 ・来賓ご挨拶 - 在ウズベキスタン日本国大使館 - ウズベキスタン共和国 高等教育・科学・イノベーション省 ・主催者挨拶 - ウズベキスタン日本センター ・参加校紹介

10:30～17:00	各大学・機関のプレゼンテーション、および各ブースでの個別相談 《プレゼンテーション》 10:30-11:00 筑波大学 11:00-11:30 東洋大学 11:30-12:00 慶應義塾大学 12:00-12:30 国際大学 ～休憩～ 13:00-13:30 山梨学院大学 13:30-14:00 名古屋大学 14:00-14:30 名古屋経済大学 14:30-15:00 名古屋商科大学 15:00-15:30 京都先端科学大学 15:30-16:00 JASSO 16:00-16:30 日本留学経験者による体験談 16:30-16:50 ウズベキスタン日本センター
17:00	終了、会場片付け
18:30～20:30	懇親会

【11月7日(火)】

8:30～16:30 学校訪問						
	A - 理系高校		B - 文系高校		C - 大学	
①	8:50-10:20	Academic Lyceum of Tashkent State Technical University	8:30-10:00	International Westminster University Academic Lyceum in Tashkent	8:30-10:00	Tashkent State University of Oriental Studies
②	11:00-12:30	Academic Lyceum of Turin Polytechnic University in Tashkent	11:00-12:30	Academic Lyceum of Tashkent State University of Oriental Studies	11:00-13:00	Tashkent University of Information Technologies
13:00/13:30 ～ 14:00/14:30 昼食						
③	14:30-16:00	Academic Lyceum of the Tashkent Institute of Chemical Technology	15:00-16:30	"International House - Tashkent" Academic Lyceum	15:00-16:30	National University of Uzbekistan
17:00～18:00 ウズベキスタン日本センターにて振り返り(任意参加)						

<グループ分け>

A - 理系高校：【京都先端科学大学、慶應義塾大学(昼食前)、筑波大学、名古屋大学】

B - 文系高校：【慶應義塾大学(昼食後)、東洋大学、名古屋商科大学、山梨学院大学(①のみ参加)】

C - 大学：【国際大学、JASSO】

(名古屋経済大学は別行動)

<各訪問校の対応者一覧>

グループ	学校名	肩書	氏名
A	Academic Lyceum of Tashkent State Technical University	Deputy Director	Mr. Sanjar
	Academic Lyceum of Turin Polytechnic University in Tashkent	Director	Mr. KARIMOV Abdujamin
	Academic Lyceum of the Tashkent Institute of Chemical Technology	Director	Mr. SAFAROV Toyir
B	International Westminster University Academic Lyceum in Tashkent	Director	Ms. SULTANOVA Shohida
	Academic Lyceum of Tashkent State University of Oriental Studies	Director	Mr. SULTANOV Xojimurod
	“International House – Tashkent” Academic Lyceum	Vice Director	Mr. KARIMJONOV Murad
C	Tashkent State University of Oriental Studies	Japanese Language Teacher	Mr. NAJIMXODJAEV Marufxodja
	Tashkent University of Information Technologies	Vice-Rector for Scientific Affairs and Innovations	Mr. TASHEV Komil Axmatovich
		Head of International Cooperation, International Ratings and Strategic Development Department	Mr. YUSUPOV Ibrokhimbek
	National University of Uzbekistan	Head of the International Cooperation Organization Department	Mr. YOZIEV G’olibjon

[3] 各日の実施状況

【11月6日(月)】 日本留学フェア

ウズベキスタンにおける日本留学フェアは、2012年から昨年までは名古屋大学ウズベキスタン事務所の主催で、全世界が新型コロナウイルス感染症によるパンデミックに見舞われた2020年以降はオンライン形式で開催していたが、UJCが主催を引き継ぐこととなった今回は、パンデミックの状況も落ち着きを見せていたことから、2019年11月以来、4年ぶりに対面で開催することと決定した。

日本から参加の各大学や機関には、学校紹介や留学プログラム等に関するプレゼンテーションの時間を30分ずつ設けたほか、来場者のご相談に対して個別に応じていただくためのブースを設置した。ブースには70cm×140cmの机と、その背後に各大学および機関のロゴを配した幅180cm×高さ200cmのボードを用意し、ボードはPRのためにも活用できるよう、ポスター等を貼ることもできるような作りとした。また、各大学および機関には通訳の役割を含むサポートスタッフを1名ずつ配置し、資料のみ参加の各大学の資料についても、特設スペースを設け、配布のためのサポートスタッフを配置した。

対面での開催は4年ぶりということもあり、来場者数がどのぐらいになるのか事前にはなかなか予想しづらかったが、結果としては開場時から多くの方々にご来場いただき、開会式の際には、会場に用意していた座席数では足りなくなり、急遽空いているスペースに椅子を追加した。それでも全員は座りきれず、立ち見の方も出るほどの盛況ぶりだった。結局、来場者の足は終了時までほぼ途切れることがなく、最終的な来場者数は700名を超え(詳細後述)、パンデミック前の水準と同等、あるいはそれ以上とも言える数字となった。会場のこの活況は、昨今のウズベキスタンにおける日本留学に対する関心の高さの表れと言えるだろう。

日本留学への興味を持つウズベキスタンの方々にとってこの留学フェアは、各校のご担当者から直接話を聞くことのできる貴重な機会であり、プレゼンテーションや各ブースでの相談を通して、多くの来場者が留学に関する有益な情報を得られたものと思われる。日本からの参加校にとっても、日本留学に関心を寄せる方々と直に接することで、今後の留学生の受け入れの可能性を広げるための機会となったことを願いたい。留学フェアには、そんな両者をつなぐ役割が求められているが、700名を超える来場者が集まり、プレゼンテーションの会場や各ブースの活気に満ちた様子を見る限りでは、少なくともそうした場を提供することだけにはできたのではないかと考えている。

【11月7日(火)】 学校訪問

日本からの各参加校および機関の要望も踏まえた上で、理系高校、文系高校、大学という3つのグループに分けてタシケント市内の学校訪問を実施。昼食を全グループ同じ場所に設定したため、文系と理系の両方の高校を訪問したいという要望に対しては、昼食の前後でグループを移動していただくという対応をとることも可能とした。

それぞれの学校への訪問時間は1時間半程度で、訪問時の対応は各学校によって異なり、学校によっては校内の施設見学などの時間もあつたが、大枠としては訪問時に校長や担当者等に挨拶をした後、教室や講堂へと移動し、日本からの参加校によるプレゼンテーションを実施。プレゼンテーションの持ち時間は各グループの参加校数によって異なつたが、概ね20分から30分程度であつた。

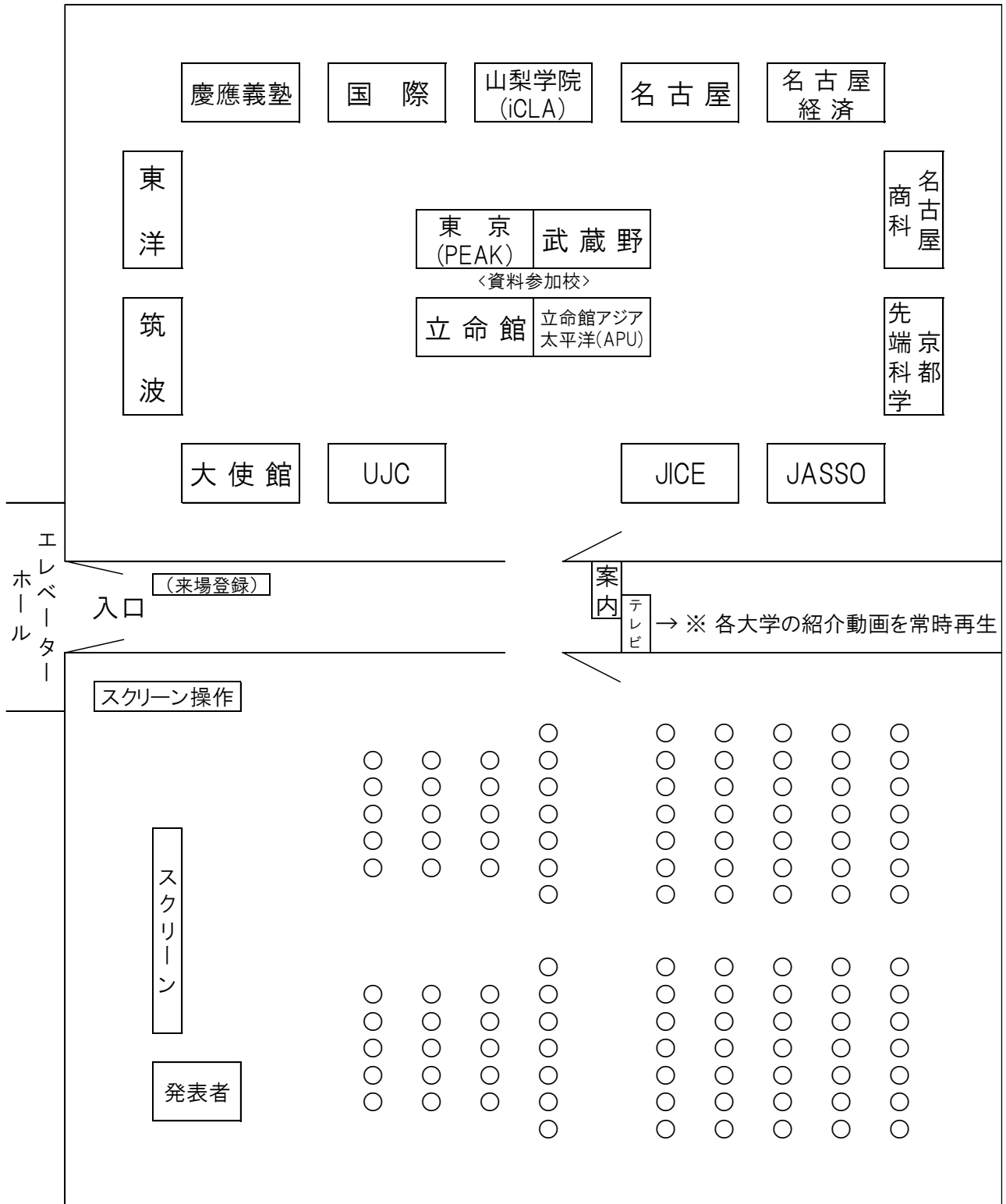
訪問校側の学生や生徒の参加者数も学校によって異なり、20名程度から100名前後までと幅があつた。中には前日の留学フェアにも来場したような、日本への留学に対して大きな関心を持っていた学生や生徒もいたが、集まった参加者は、必ずしも元々留学に興味を持っていたとは限らないため、今回のプレゼンテーションをきっかけに留学に興味を持つようになった参加者も少なからずいたものと思われる。潜在的な留学生候補を掘り起こすという視点からも、日本からの参加校にとって効果的なアピールの場になったのではないかと考えられる。

[4] 会場の様子

11月6日の日本留学フェアには700名以上の来場者があり、会場は熱気に包まれた。ここでは当日の会場図とともに、翌日の学校訪問と併せて、両日の様子を収めた写真を載せておきたい。

【日本留学フェア会場図】

「コーカンド」ホール（各大学および機関のブース設置）



「ウルゲンチ」ホール（プレゼンテーション会場）

【日本留学フェアの写真】

＜「コーカンド」ホール＞（各大学および機関のブース設置）



＜「ウルゲンチ」ホール＞（プレゼンテーション会場）



【学校訪問の写真】

＜グループ A＞（理系高校）



＜グループ B＞（文系高校）



＜グループ C＞（大学）



[5] 来場者の傾向

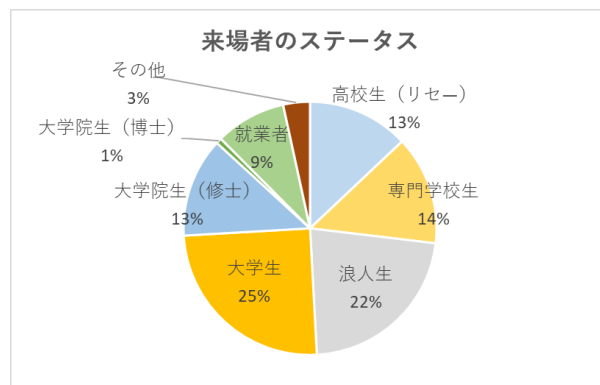
今回の日本留学フェア開催にあたり、来場希望者には事前登録をしていただくよう案内していた。事前登録が完了するとQRコードが発行され、そのQRコードを当日の来場時、会場入口でタブレット端末にかざしていただいて入場を記録することで来場者数をカウントするという方法を使った。しかし、事前登録をせずに来場した方々も多かった。事前登録をしていなかった方々には、受付にてスマートフォン等を利用して来場登録をしていただくことを想定していたが、その場で登録することができない方もいると思われたため、用紙に必要事項を記入することで登録証を発行し、それを会場入口にてスタッフに提示することで入場していただくという方法も用意していた。その結果、スマートフォン等で登録するよりも用紙に記入する方が簡便だったことから、事前登録なしで来場した方々の多くは、用紙に記入して入場することを選んだ模様。

それぞれの人数は、事前登録者数 756、うち来場者数 456、当日に用紙に記入することで登録した来場者数は 226 で、来場者数の合計は 682 となった。しかし、事前登録者の入場登録用のタブレット端末に不具合が生じていた時間帯があり、この間に来場したために入場登録ができなかったと見られる方々の数は、前後の時間の入場者数から推計すると、およそ 60 名から 100 名程度に上ると見られる。そのため、最終的な来場者数は 700 名を超えていたことは確実で、おそらく 750 名程度に達していたものと推定される。

来場希望者の事前登録にあたり、氏名や連絡先等の個人情報の他、いくつか質問項目を設けていたので、ここでは回答結果をもとに傾向を分析してみたい。なお、来場者の傾向を見ることを目的とするため、事前登録のみで来場しなかった方については対象とせず、当日来場した 456 名の回答のみを対象とする。

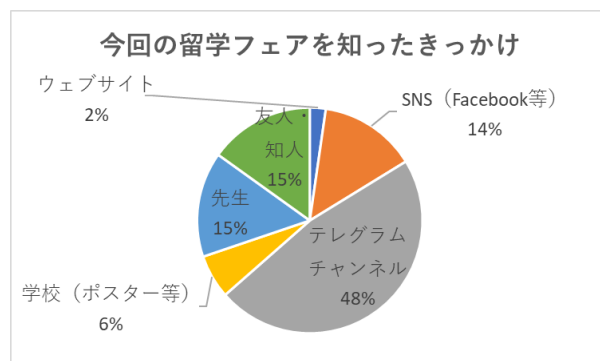
1. 来場者のステータス(回答数 409)

今回の留学フェアへの日本からの参加校は、全体的に大学院よりも学部生の募集に重点を置いている大学が多かったようだが、卒業後に大学への留学を考えていると見られるリセー¹に通う高校生、および専門学校生²の合計は 27% で、全体の 4 分の 1 程度だった。ただし、浪人生を含めると 49% となり、全体のほぼ半数となる。大学院への留学を目指していると思われる大学生と大学院生の合計は 39% で、さらに就業者も加えると 48% となり、全体としては、学部、大学院、それぞれを希望する来場者の割合は半々程度だったのではないかと推定される。これを見ると、学部生に限らず、大学院生の募集にも参加の効果は期待できそうである。



2. 今回の留学フェアを知ったきっかけ(回答数 351)

最も多かったのは、ウズベキスタンにおいて広く利用されているメッセージアプリ「テレグラム」の UJC のチャンネルを通じて留学フェアを知った方々で、来場者全体の約半数となる 48% を占めた。また、友人・知人、あるいは先生をきっかけに知った方々も計 30% に上り、SNS が発達した現在においても、人づてに伝わる影響力はなかなか大きく、軽視できないだろう。

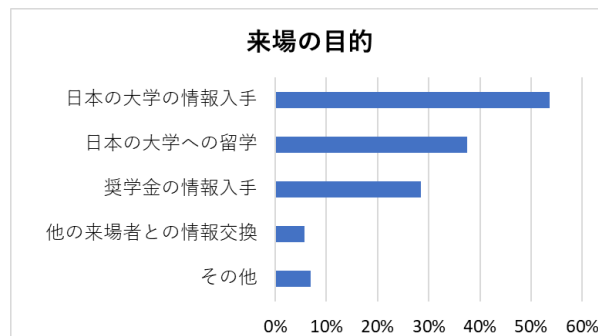


¹ ウズベキスタンの義務教育は 11 年間だが、義務教育学校 9 年生の終了時にそのまま同校で 10 年生に進まず、リセーと呼ばれる大学の付属高校に入ることもできる。リセーの課程は 2 年間で、それを終えると義務教育修了となる。

² 便宜的に「専門学校生」としているが、分類としてはカレッジと呼ばれる専修の学校に通う生徒で、リセーと同様、義務教育学校 9 年生の終了時に入学することができる。

3. 来場の目的(回答数 373) ※複数回答あり

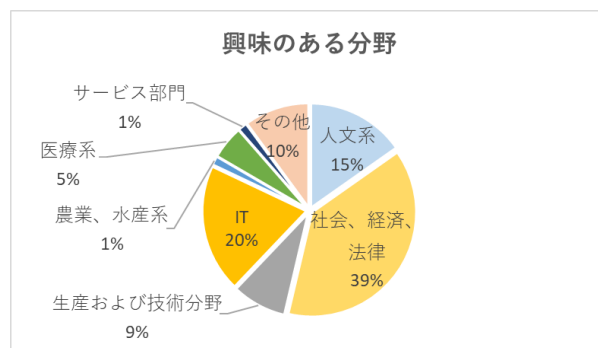
複数回答可能な設問だが、「日本の大学への留学」を選んだ方は 38%であった。この 38%の来場者については、すでに留学を現実的な目標として検討しているものと見られる。ただ、奨学金なしで留学できる学生は少数派であるため、上記 38%の多くが、併せて「奨学金の情報入手」も選択している。



一方で、「日本の大学の情報入手」は 54%に上り、その中には、すぐに留学を検討しているわけではなくても、将来的な留学に備え、早めに情報を収集しておきたいと考えて来場した方も少なくないと見られる。ウズベキスタンにおいて知名度の高い日本の大学はまだそれほど多くないため、今回のご参加校は、仮に入学志願者の増加といった明白な効果が現れず、参加したことに対する即効性としては低かったとしても、まずは大学名を周知するだけでも、将来の留学を考えている層に対して大きなアピールになったことであろう。

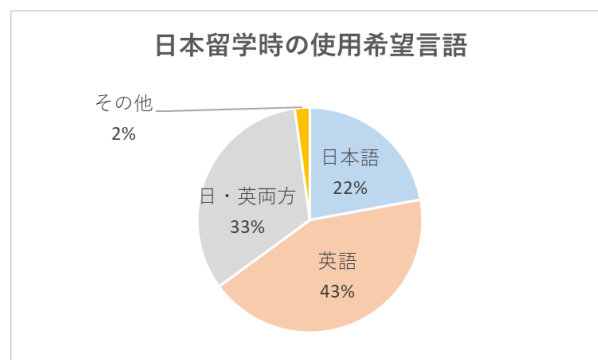
4. 興味のある分野(回答数 367)

留学するにあたって興味のある分野に関しては、大別すると、人文系と、社会・経済・法律にサービス部門を加えた文系の希望者が 55%、生産および技術分野、IT、農業・水産系、医療系を合わせた理系が 35%となり、文系の希望者の方が多いようである。ただ、日本では文系と理系の比率がおおよそ 7:3 という状況になっていることを鑑みると、今回の留学フェアの来場者に限れば、日本よりも若干、理系希望者の比率は高かったと言える(回答が多岐にわたる「その他³⁾」の 10%は含まない)。特に IT 系は近年、ウズベキスタンにおいても新しい大学が多く設立されるなど、この設問において理系希望者の半数以上が IT 系を希望していることから、その人気の高さが窺える。



5. 日本留学時の使用希望言語(回答数 371)

日本への留学に際して障壁となるのが日本語だが、受講の際の使用希望言語については、22%が日本語と回答。「日本語と英語の両方」と答えた 33%を合わせると 55%となり、半数以上は日本語での授業を希望、あるいは受講可能と考えているものと受けとれる。もちろん、日本留学フェアであるからこそ、ある程度日本語の学習経験のある方々が多く来場していたということは確かだが、この数字は、日本語のカリキュラムしか持たない大学であっても、留学生を受け入れることができるという可能性を示唆しているとも言える。



しかし、日本語の 22%に対し、英語を希望した方々は 43%に上り、それに「日本語と英語の両方」と回答した 33%を加えると 76%となり、全体の 4 分の 3 を超える。このことから、やはり英語のプログラムを持つ大学の方が留学生を受け入れやすいということも事実であると言えるだろう。今回の留学フェアにおいては、進行や各大学のプレゼンテーションでは日本語を使用せず、基本的に英語を使用言語としていたが、より多くの方に留学フェアへの関心を持っていただくためにも、英語を使用言語とする方向性は次回も維持したい。

³⁾ 自由記述の回答は宇宙工学、教育、心理学、経営、国際関係、観光、日本文化、芸術、音楽、映画、デザインなど。

[6] 次回に向けて

4年ぶりに対面での開催となった今回の日本留学フェアだったが、多くの来場者が集まり、会場は予想以上の賑わいを見せた。翌日の学校訪問終了後には、任意参加で振り返りを実施し、合計で6つの大学と機関に集まっていたが、その中では、「多くの来場者が訪れて満足」「通訳のサポートスタッフの働きが素晴らしい」「日本留学に関するポテンシャルを感じた」など、概ね好意的な意見をお寄せいただいた。多くの来場者数が訪れたことについては、むしろ「ブースでなかなか人が切れる時間がなく、盛況すぎて疲れた」といった感想も一部から聞かれ、こうした声が会場の活況ぶりを象徴しているように感じられた。

一方で、運営側としては反省すべき点もあった。振り返りの中で「ウズベキスタンのことをもう少し事前に調べておけばよかった」「訪問先の学校のことを調べておけばよかった」といった声が聞かれたが、そうした情報を事前にできる限り提供することも運営側の役割の1つだと考えられる。ウズベキスタンにおける必要な手続き上、学校訪問の予定が直前までなかなか決まらないという事情はあるものの、訪問校が決まった時点で、日本からの各参加校に対して訪問校をお知らせする際に、可能な限り付随する情報も併せて知らせるという配慮があつて然るべきであった。

留学フェアのために開設したウェブサイトについては、次回の開催時まで、今回の各参加大学および機関の情報を1年間残しておく予定だが、この特設サイトについても、内容の充実を図り、さらなる有効活用の方法を検討していきたいと考えている。また、今回の留学フェア参加校の資料の残部については、UJCにて配布を続けており(右の写真のようにロビー内の棚に大学案内や留学パンフレットをまとめて配置)、特設サイトに掲載した各校の紹介動画は、UJCのロビーでも随時流している。



全体的には盛況のうちに幕を閉じたと言えそうな今回の留学フェアではあったが、反省すべき点はしっかりと反省した上で改善に取り組み、学校訪問終了後に実施した振り返りの時間にいただいたご意見、および事後に各参加校に任意での回答を依頼したアンケートの結果も踏まえ、次回に向けて準備を進めていきたいと考えている。また、参加大学の数が増えれば、来場者のさらなる増加にもつながる可能性があると思われるので、日本の各大学に向けたご参加の案内も強化していきたい。留学生募集に加え、ウズベキスタンの大学と何らかの形での連携を検討している大学があれば、ご要望に応じて、そうした大学とウズベキスタンの大学をつないでいく試みについても、留学フェアの機会を利用しながら取り組んでいきたいと考えている。その他、ウズベキスタンの主要都市であるサマルカンドやブハラでの留学フェア開催も希望する大学からの声があつたため、今後実現の可能性について検討を進めたい。

最後に、留学フェアと学校訪問という2日間だけのためにわざわざ日本からお越しいただいた各ご参加大学と機関の皆様、資料参加していただいた大学の皆様、共催、後援、協力など様々な形で運営に携わっていただいた各機関の皆様に対し、改めて深く感謝申し上げたい。来年の開催時はより魅力のある留学フェアになるよう、準備に尽力していきたいと考えているので、今回に続いてご参加を検討していただけるようであれば幸甚の至りである。

以上